

## 名古屋市立大学看護学部とシドニー大学との学術交流

— はじまりとその具体化作業 —

森 雅美<sup>1)</sup>・生田克夫<sup>2)</sup>・勝又正直<sup>3)</sup>・中嶋律子<sup>4)</sup>

### The Materialization of Academic Exchange Program between the School of Nursing, Nagoya City University, Japan and the College of Health Sciences, University of Sydney, Australia

MORI Masami, IKUTA Katsuo, KATSUMATA Masanao,  
NAKAJIMA Ritsuko, KODAMA Kazuko

キーワード：学術交流、名古屋市立大学、看護学部、シドニー大学、オーストラリア

Key words : academic exchange, Nagoya City University, School of Nursing, University of Sydney,  
Australia

#### 1 はじめに

本学は、各研究科・学部が海外の大学との間に学術交流協定を締結している（表1参照）。学部設立間もない本学部においても、次節に述べる経緯で平成13年度に学術交流の場が整い、翌年度には具体的な事業に取組むこととなった。ここでは、交流協定締結までの経緯とともに交流事業の具体化の作業過程を述べる。また、これらに伴って整備が必要であった看護学部紹介用英文パンフレットの作成の経緯についても併せて報告する。

#### 2 シドニー大学との学術交流協定の調印

本学薬学部の四ッ柳智久教授が平成12年9月にシドニー大学の研究者を訪問した際に、本学とシドニー大学間の

学術交流推進の話が始まった。シドニー大学はオーストラリア最古の大学で、3つの学群からなる総合大学であり、同国内で最高水準の看護学部を有している。シドニー大学の概要を表2にまとめた<sup>1)</sup>。

本学では、平成12年度当時、「1学部が1大学との交流」との原則があったことから、シドニー大学との交流について対象は看護学部、薬学部および医学部とするが、交流推進は看護学部が窓口となることになった。この方向について本学部教授会において報告・了承がなされた<sup>2)</sup>。

平成13年2月に、すでに本学医学部が学術交流協定を締結している New South Wales 大学（シドニー市）を医学部分子医学研究所の岡田秀親教授が訪問した折りに、シドニー大学へ足を伸ばして本学(特に看護学部)の概要の説明をして、交流推進に関する基本的な合意を得た。その後、平成13年3月にはシドニー大学側から交流

1) 名古屋市立大学看護学部（生化学）

2) 元名古屋市立大学看護学部

3) 名古屋市立大学看護学部（社会学）

4) 名古屋市立大学看護学部（助産学）

1) Nagoya City University School of Nursing (Biochemistry)

2) Formerly Nagoya City University School of Nursing

3) Nagoya City University School of Nursing (Sociology)

4) Nagoya City University School of Nursing (Midwifery)

## 名古屋市立大学看護学部とシドニー大学との学術交流

の覚え書き的な素案が届けられ、それについて本学部教授会においても審議された。席上、異論はなく、交流の本協定作成へさらに一步進むこととなった<sup>3)</sup>。

平成13年度に入って、英文および和文での学術交流協定の作成にとりかかった。9月に最終的な英文協定案が、また10月に和文案が完成した。協定文案について本学部

での承認<sup>4)</sup>、全学の国際交流委員会の同意および財政負担を受けもつ設置者(名古屋市当局)の承認を得た後に、学長および学部長の署名を得、本学側から署名した協定書をシドニー大学へ郵送した。先方の署名を得て、協定は平成14年3月から発効となった。学術交流協定の写しを図1に示す。

表1 大学間交流協定に基づく名古屋市立大学各学部の交流大学一覧

2002年3月現在

学部	交流大学	協定締結年月日
医学部	ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)	1996年12月5日
	シドニー大学(オーストラリア)	2002年3月14日
薬学部	南カリフォルニア大学(米国)	1992年9月25日
	シドニー大学(オーストラリア)	2002年3月14日
経済学部	ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)	1990年11月21日 (研究者交流) 1991年11月15日 (学生交流)
	ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)	1998年3月30日
芸術工学部	トリノ工科大学(イタリア)	2000年1月26日
看護学部	シドニー大学(オーストラリア)	2002年3月14日

表3 看護学部紹介用英文パンフレットの作成上の検討課題と主な作業内容

- 1 基本構成、用いる写真、配色などすでに作成している日本語の本学紹介用パンフレットのスタイルおよびデザインを踏襲することとした。
- 2 専門科目の紹介  
時間の節約を図るため、ワーキンググループ委員が分担して日本語で原案を作成した。それらについてワーキンググループで意見交換後に科目担教員に提示提示して意見を求めた。その際に専門用語の英訳も依頼した。全体の英訳は専門の業者の知恵を借りて、統一の取れたものを得ることとした。
- 3 学部長のことは  
学部長に執筆を依頼した。
- 4 国際交流に使用する上で追加すべき事項  
日本の地図を入れ、その中で名古屋の位置を明示すること。

表2 シドニー大学の概要

2001年11月現在

シドニー大学は、全オーストラリアの中で歴史、規模また研究・教育の質の点で、最高水準の大学の一つである。本大学の教育陣ならびに卒業生は、オーストラリア国内はもとより国際的にもそれぞれの分野で多大な貢献をし、指導的な立場にある。本学は、産業界との協力を強く進めているとともに、他方で地域研究機関との共同研究をはじめとして研究機関の連携を推進するための中核的役割を果たしている。

### 1 沿革

所在地：オーストラリア国 ニューサウスウェールズ州 シドニー市  
 設立年：1850年(オーストラリア最古の大学)  
 学生数：39,950人  
 教員数：5,580人  
 創立以来の卒業生：218,347人  
 図書蔵書：500万冊  
 卒業生：2000年12月 8,980名(博士号授与346名および修士号授与2,061名を含む)

### 2 学部・学科などの構成

シドニー大学は健康科学、人間社会科学および理工学の3つのカレッジ(学群)からなり、それぞれはさらに次のような学部から構成されている。

- \*健康科学カレッジ：看護学部、薬学部、医学部、歯学部、健康科学部
- \*人文科学カレッジ：教養学部、経済・商学部、教育学部、法学部、商学大学院、シドニー教養短期大学部、音楽学部
- \*理工学カレッジ：農学部、建築学部、工学部、僻地管理学部、理学部、獣医学部

交流対象先の健康科学カレッジは、2000年度の在籍学生数は4,353名である。

各学部の学生数は以下の通りである。

看護学部：1,627名/薬学部：845名/医学部：1,887名/歯学部：371名/健康科学部：4,353名  
 合計：9,083名

### 3 看護学部について

看護学部は、臨床看護学科と家庭・地域保健看護学科の2つから構成されている。さらに、大学院修士課程および博士課程を備えていて、オーストラリア国内外での指導的看護職者の教育に優れた実績を残している。

**ACADEMIC EXCHANGE AGREEMENT  
between the**

**COLLEGE OF HEALTH SCIENCES,  
UNIVERSITY OF SYDNEY, AUSTRALIA**

and the

**SCHOOL OF NURSING, FACULTY OF PHARMACEUTICAL  
SCIENCES AND MEDICAL SCHOOL,  
NAGOYA CITY UNIVERSITY, JAPAN**

Through discussions, the College of Health Sciences, University of Sydney, Australia and the School of Nursing, Faculty of Pharmaceutical Sciences and Medical School, Nagoya City University, Japan, wishing to establish cooperative relations between the two institutions based on the principle of mutual interests and benefit, will develop academic and cultural exchanges especially in the areas of teaching and research. Both institutions intend to seek concrete cooperation in the following areas:


1. Exchange of students
2. Exchange of faculty members
3. Joint research activities
4. Participation in seminars, workshops and academic meetings
5. Exchange of academic materials and other information
6. Special short term academic programs and professional development programs
7. Special short term "shadowing" programs
8. Rural and remote visits

The Institutions acknowledge that all visits of staff and the admission of students will be subject to compliance with the entry and visa regulations of Japan and Australia and the Institutions' requirements in respect of admission and staff appointments.

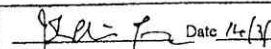
The Institutions acknowledge that in the absence of any specific agreement to the contrary, all expenses of salary, travel, living and allied costs will be determined at the discretion, and be the responsibility, of the visitor's home Institution.

The friendly cooperative relationship between the two universities is established upon the date of signature of this agreement and will be valid for five (5) years.

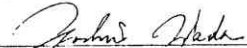
COLLEGE OF HEALTH SCIENCES,  
UNIVERSITY OF SYDNEY

  
Professor J.A. Young  
Pro-Vice Chancellor  
College of Health Sciences

Date: 14 March 2002

 Date 14/3/02  
 Signed on behalf of the University of Sydney by Professor J A Young, Pro-Vice-Chancellor (Health Sciences) pursuant to authority delegated to him by Senate effective from 1 February 1999

NAGOYA CITY UNIVERSITY

  
Professor Yoshiro Wada  
President  
Nagoya City University


Date: 3 / 6 / 2002

NAGOYA CITY UNIVERSITY  
SCHOOL OF NURSING

  
Professor Kazuko Kodama  
Dean

Date: 3 / 6 / 2002

NAGOYA CITY UNIVERSITY  
FACULTY OF PHARMACEUTICAL  
SCIENCES

  
Professor Mamoru Nakanishi  
Dean

Date: 3 / 6 / 2002

NAGOYA CITY UNIVERSITY  
MEDICAL SCHOOL

  
Professor Hitoo Nishino  
Dean

Date: 3 / 6 / 2002

図1 名古屋市立大学看護学部、薬学部、医学部とシドニー大学健康科学カレッジとの間の学術交流に関する協定書

### 3 名古屋市立大学看護学部紹介用英文パンフレットの作成

交流協定の締結準備と並行する形で、平成13年6月から本学部紹介用の英文パンフレットの作成準備にとりかかった。作成作業は、国際交流委員（1名）と広報委員会からの委員3名の計4名で構成するワーキンググループで行った。主な検討課題および作業を表3にまとめた。こうして、平成13年12月に最終原稿ができあがり、平成14年1月に印刷完成した。完成したパンフレットの一部を図2に示す。

### 4 シドニー大学との学術交流事業の遂行

平成13年度末の交流協定の発効に伴って、平成14年度から看護学部として行うべき具体的な事業内容の検討を始めた。平成14年4月に学部長から検討の委託を受けた国際交流委員が英文パンフレット作成時のワーキンググループの委員に協力を求めて、「シドニー大学との交流具体化小委員会」を発足させた。委員会は年度内に都合8回開催した。各回の協議事項を表4にまとめた。交流協定では、教育および研究の分野における学術的ならびに文化的交流を図ることになっている。具体的には、表5に記載の事業の遂行が求められている<sup>5)</sup>。

平成15年度には大学院の設置も予定されている。従って将来的には大学院生の短期留学あるいは共同研究等への発展も期待できるが、初年度に行う事業としては学部学生が短期の見学プログラムに参加する企画を中心とした。それに複数の教員も同行することとした。

次節に記した学生の意向調査結果などを参考として、参加学生数、研修実施時期、研修期間あるいは同行教員の数などについて検討・確認の作業を進めた結果、最終的に表6のような企画案に至った。それについて平成14年7月23日の教授会で審議し、原案通り承認された<sup>6)</sup>。

### 5 シドニー大学看護研修プログラムへの学生の関心度調査

今回検討している研修プログラムに対して学生はどのような反応を示すか、また、彼等は、自らの英語能力をどのレベルと評価しているか知るために、表7に示した内容で調査を行った。

調査結果を以下にまとめた。

- 1) 研修プログラムへの興味の度合いでは、70%が興味を示した
- 2) 研修プログラムへの参加については、参加したいとする声が、28%ある一方で費用問題を取り上げる

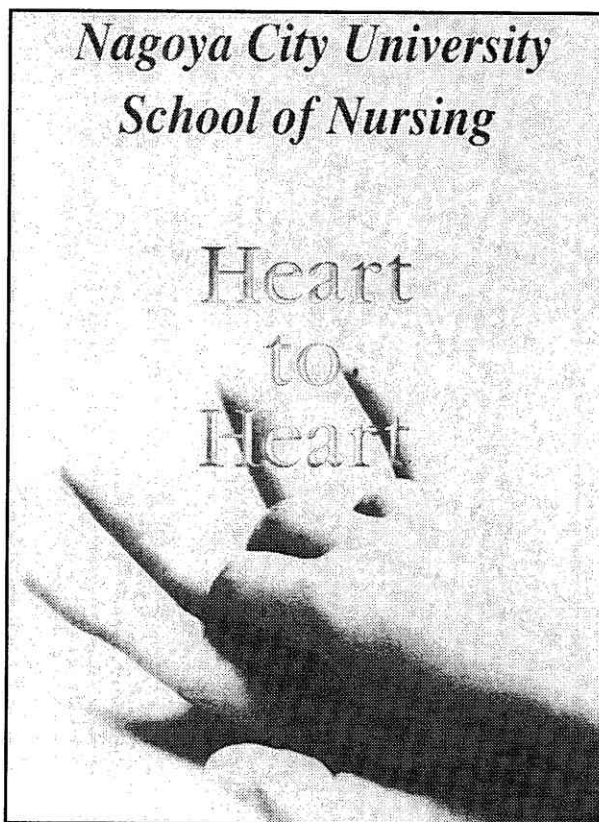


図2 名古屋市立大学看護学部紹介用英文パンフレットの表紙

声（60%）が多かった。また、研修内容によって考えとする声が42%あった。

- 3) 英語、英会話力はどうかとの問いに対しては、「ほとんど話せない」（56%）、海外旅行で困らない」（5.6%）、「日常生活が何とかなる」（5.6%）、「英語で十分にコミュニケーションが取れる」（0%）であり、「よく分からない」とする回答が33%見られた。
- 4) 希望する研修内容として、病院見学（49名）、オーストラリアと日本の看護の違い（16名）、参加型の研修（看護体験、医療現場での実践など）（13名）、シドニー大学の学生との交流（10名）が上位を占めた。また、オーストラリアの保健医療システム、語学研修との回答もそれぞれ7名あった。
- 5) 学部が企画している海外研修プログラム全般に対する意見や希望としては、安い費用（17名）、定員を増やして欲しい（4名）、通訳などの語学面のフォロー（4名）があった。他に、ホームステイの利用（2名）や「他大学の講義に興味がある」、「もっと長期がいい」等であった。なお、「日本のことも分かっていない段階で、海外に出かけて勉強になるのか」という否定的な意見もあった。

この調査結果を参考として、平成14年度実施のシドニー

表4 シドニー大学との交流具体化検討委員会の活動概要

委員会開催月日	協議・確認事項など
第1回 平成14年4月30日	1 医学部戸莉教授のシドニー大学訪問報告書を回覧 交流協定の目的部分を抜粋，今年度の予算内容の確認 2 交流の形について * shadowing (見学) とし，教員および学生が同時に訪問する。 * 教員は2名 (学部長または国際交流委員および看護専門科目担当教員) * 学生：数名 3 研修 (見学) 内容の討議 4 訪問の時期と期間 3月の中頃から卒業式前とする。 期間：当面は，大学訪問期間は1週間とし、前後を含めて約10日間の旅程 5 学生：2，3年生を対象
第2回 平成14年5月28日	1 計画の準備とそのスケジュールの詰め 学生の意向調査，研修実施要項の作成，学生募集 シドニー大学での研修 (2003年3月17日-21日) 2 費用の見積もり，宿泊施設 (シドニー大学のドミトリーなどを含めて) の資料を収集
第3回 平成14年7月10日	1 学生の意向調査結果の報告 2 研修実施要項の検討 * 研修期間：2003年3月17日-21日 * 全旅程期間：2003年3月14日-24日 * 参加学生の募集日程と選考法，同行教員の選出法
第4回 平成14年7月16日	1 参加学生数の上限は8名 2 学生募集用の案内文書の確定 3 研修プログラムの実施：教授会での説明文書確認
第5回 平成14年7月31日	1 実施要項の細部の字句訂正 2 研修参加学生の選考方法の手順を明文化 3 旅程について妥当性を検証 (旅行社の参考意見あり)
第6回 平成14年9月3日	1 研修参加応募学生 (11名) から8名を抽選にて選考 2 学生へ今後の日程を伝えた
第7回 平成14年12月3日	1 研修参加学生と同行教員による「研修への準備状況」の報告 2 シドニー大学との協議後の研修プログラムの大枠確認
第8回 平成14年12月10日	1 研修に関する航空券・宿泊施設などの依頼業者の選定 3社から見積もりを取り，その中から有利な1社を選んだ

表5 名古屋市立大学とシドニー大学間の学術交流協定

◇ 交流協定に記載の交流事業
1 学生の交流
2 教員の交流
3 共同研究活動
4 セミナー，ワークショップさらに学術集会の 会合等の実施
5 学術刊行物等およびその他の情報類の交換
6 短期の学術プログラムあるいは職能開発プロ グラム
7 短期の見学プログラム
8 僻地医療と遠隔保健医療

表6 平成14年度のシドニー大学看護学部での本学学生の研修の実施概要

時	期：平成15年3月中旬から下旬
期	間：大学での研修5日間，旅程約10日間
研	修 内 容：短期の見学プログラム (shadowing)
修	参加学生数：8名まで
同	行 教 員：2名

表7 海外研修に対する学生の意向調査  
—調査内容と実施概要—

<p>* 調査項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 研修プログラムに興味があるかどうか</li> <li>2 参加したいと思うか</li> <li>3 参加希望の場合、英語の力はどのくらいか</li> <li>4 研修したいことなど</li> <li>5 学部が企画する海外研修に対する希望や意見など</li> </ol> <p>* 調査対象：2年生(81名), 3年生(80名) 回収は2年生：66名, 3年生：76名</p> <p>* 調査時期：平成14年6月</p>
---

大学看護学部での学生研修プログラムの検討を行った。調査結果から、参加希望数が多いことも考えられたので募集枠を当初案の5名から8名に増員した。また、参加学生間に語学力の差は少ないと判断して、選考に当たっては英語力を問わないこととした。

## 6 考 察

ここでは、本学部がシドニー大学と学術交流協定を結ぶに至る経緯と具体的な交流開始に伴って必要とされる本学部紹介用の英文パンフレット作成の過程、さらに第一回の交流事業とも言うべきシドニー大学看護学部学生研修の立案経過のまとめを行った。

本学のすべての研究科・学部が、それぞれに交流対象とする海外の大学と協定を結んで一定の交流成果を上げている中、幸いにシドニー大学との交流の話が出てきた。平成11年4月に設立の本学部にとって、海外の大学との交流事業は学部のエネルギーの分散を招くことを心配する声も一部にあった。しかし、学部として推進の方向が決まるとともに、医学部、薬学部の先生方の絶大な支援を得て、ほぼ計画通りに学術交流協定の締結に至った。そして平成14年度には初めての事業として8名の学生がシドニー大学看護学部での研修に参加するに至った。長いスパンで見るとべきことであるが、当看護学部の歴史の中でもエポックメイキングな出来事と思う。

この歴史的な協定締結であるが、実は締結のためにシドニー大学へ協定書を2度送っている。1度目は、平成14年1月下旬であり、2度目は、同年3月初旬である。1度目は、シドニー大学から返送がないために問い合わせたところ、郵送した文書がシドニー大学構内で行方不明になっていた。2度目の発送では、無事に署名入りの協定文が返送されてきた。

学部紹介用の英文パンフレットは、海外大学との交流

の有無に拘わることなく整えているべきものである。今回の交流論議の中で、派生的ではあるが英文パンフレットが作成されたことは、学部にとって一応の体裁を整える結果となった。

短期の見学プログラムは英語では“shadowing”と表現される。今回は最初の参加であるので、その内容が如何なるものであるかが不明であった。すでに既成のプログラムが存在するのか、あるいは参加者の要望を受け入れて組み直してくれるかなど、確認を要する部分も多々存在した。

学生の意向調査では、海外での研修プログラムに対して興味があり、参加したい気持ちをもつ学生が多数あることが分かった。しかし、費用・英語力がブレーキとなったためか、応募者は限られた数であった。

ここに報告した経緯でシドニー大学との交流は始まった。まだ細いが、国際交流の道筋はできた。交流の進展によってそれが動脈となる日が近いことを期待する。なお、平成14年度に実施したシドニー大学看護学部での本学部学生の研修については、稿を改めて報告する。

## 参考資料

- 1 シドニー大学の概要、  
<http://www.usyd.edu.au/about/index.shtml>, 2002.9.26.  
<http://www.usyd.edu.au/research/index.shtml>, 2002.9.26.  
<http://www.usyd.edu.au/college/index.shtml>, 2002.9.26.  
<http://www.chs.usyd.edu.au/>, 2002.9.26.
- 2 名古屋市立大学看護学部教授会議事録 平成12年度第20回教授会 平成13年2月13日
- 3 名古屋市立大学看護学部教授会議事録 平成12年度第24回教授会 平成13年3月13日
- 4 名古屋市立大学看護学部教授会議事録 平成13年度第12回教授会 平成13年10月23日
- 5 名古屋市立大学看護学部、薬学部、医学部とシドニー大学健康科学カレッジとの間の学術交流に関する協定書 2002年3月締結
- 6 名古屋市立大学看護学部教授会議事録 平成14年度第8回教授会 平成14年7月23日  
(受稿 平成15年10月9日)  
(受理 平成16年1月13日)